

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真	後藤
山行番	NO. 1927		
日時	2021/6/15 (火) 無風・晴		
山域	頸城・雨飾山(1963m)		
コース	小谷温泉・山田旅館4:30-大海川登山口発4:55-荒菅沢6:20-黒沢尾根 一笹平8:16-雨飾山8:48~9:14-笹平-黒沢尾根-荒菅沢10:55- 登山口12:17-山田旅館(温泉)-長泉18:00		
標高差	上り 駐車場1160m ~ 雨飾山1963m=約803m 下り //		
困難度	非常に困難	やや困難	レ普通 やや易しい 易しい
やっぱり、シラネアオイは美しい			
参加者	後藤、加藤、星、斎藤(駿東山の会)、荒木(一般)=5名		

梅雨の晴れ間を狙っての山行。当初、計画のメインは、飛騨・乗鞍岳だった。しかし、天気はハッキリしない。ただ15日、新潟方面は好天予報。やっぱり登山は好天が良い。メインは、雨飾山に変更した。久しぶりに、シラネアオイも見たい。

14日、長泉発6:00。初日は白馬・大雪溪に向かった。猿倉は久しぶりだった。駐車場の車はたったの2台のみ。猿倉荘はまだ開いていない。林道を上る。雨はないが、上空は霧が去来。気温は高い。



猿倉荘



白馬岳

小日向山から年配者が数名降りて来た。登頂はしなかったようだ。林道脇には花が多かった。延根十鳥(ノビネチドリ)が良かった。ただ、毎回見られた座禅草(ザゼンソウ)は、小さな株が1ヶのみ。既に終わったようだ。

林道終点から整備された歩道を上る。白馬尻小屋下、標高約1500mから雪溪が始まった。慣れない方が2名いるのでアイゼンを装着。上から4・5名降りて来た。アイゼンは履いていなかった。へっぴり腰で降りている。

雪渓を快適に上る。寒いくらいの気温だ。20分ほどで白馬尻小屋。夏は賑わう小屋だが、今日は誰もいなく静か。そもそも小屋はまだない。小屋は冬は雪崩を避けるために、一旦、解体される。去年は、コロナで未営業。今年は、どうなるか??

ここで昼食。ビアを一本やった。いただいた「チクワ」「キュウリ」が美味しい。記念写真で沢筋に移動したら、上からの風がモーレツに寒かった。早々と下山。今日の宿、小谷温泉・山田旅館に移動した。



延根千鳥（ノビネチドリ）

白馬・大雪渓で観察した主な花

延根千鳥（ノビネチドリ）、二輪草（ニリンソウ）、山荷葉（サンカヨウ）、曙躑躅（アケボノツツジ）、衣笠草（キヌガサソウ）、猩々袴（ショウジョウバカマ）、白根葵（シラネアオイ）、延齡草（エンレイソウ）、立坪堇（タチツボスミレ）、大葉溝酸漿（オオバミズホウズキ）など。

車で小谷温泉・山田旅館に向かった。山田旅館は、14年振りだった。最初に利用したのは、1977年5月、30歳だった。その時は、単独で妙高山から雨飾山まで縦走した。

今回の宿泊費は、13300円。44年前は4000円だった。下記の記録にしっかり領収書があった。それにしても安い。当時は車でなく電車・バスで往復。記録では、帰路、小谷温泉8:00、長泉17:50とある。いやはや大変な時代だった。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/999-10.pdf>

すぐ温泉に入る。ここの温泉は、兎に角、素晴らしい。温度は、熱からず温からず。泉質は、ナトリウム・炭酸水系で入浴後は、実にサッパリする。不思議な温泉だった。基本的に44年前と何も変わっていない。

ただ、旧館建屋は昔のままで、湯治風で部屋の回りは廊下が走る。音は筒抜けで、プライバシーはない。ま、旅行ではイヤな方も居るだろうが、登山なら問題はない。夕食は、多すぎて食べきれなかった。ジジ・ババは、減らして安くして貰った方が有難い。



山田旅館



夕食

昨夜、別件で山田旅館から電話があったので、1977年時の旅館代金を正した。話では、いくら44年前でも、「4000-はあり得ない」朝食なしとか、何かあったのではないかという見解でした。また、夕食は「食べきれないので、減らして欲しい」と言えば、対応しますとの事でした。

夕食前、部屋でイッパイ。仲間が作った、新梅の「シヨウユ漬け」がビアに美味しかった。「シヨウユ漬け」は、珍しいが、なかなかの逸品。夕食後、もう一度、温泉に入る。今度は展望風呂。基本的に泉質は変わらない。

入浴後、談話室に新潟県連理事長のS氏が陣中見舞いに来ていた。S氏とは長い付き合い。白馬岳から親不知のいわゆる、「日本海オート・ルート」山岳スキー時、親不知に迎えに来て貰った。瑞牆山登山時は、拙宅に宿泊もした。新潟と静岡は、「フォッサマグナ」で結ばれている。と、交流が続いている。



新潟名物の笹寿し

家は有間川だから、距離は80km近くある。よく来て下さった。差し入れに、新潟名物の「笹寿司」を頂いた。この寿司は、大きさが手ごろで、酢飯なので、山の行動食に最適。とても美味しかった。私は飲み過ぎで疲れていたもので、早々に失礼した。

15日、4時前起床。両隣の仲間は、既に起きたようだ。温泉に入りたかったが、時間がなかった。朝食は弁当。小さな宿は、早朝対応してくれるが、大きな所はダメ。山の宿なのだから、そのくらいはヤレといつも思うが・・・。

本来、朝食をシッカリ摂り、トイレを済ませ出発したい。途中の山中で大キジ（大トイレ）は、自然保護の立場からも避けたい。私はこの日「快腸」で、朝食前に済ませた。弁当は、行動食に回し、夕食時いただいたゴハンで「お茶漬け」を流し込んだ。

大海川登山口着。車は数台。若い衆が4～5人キャンプをしていた。天気はイイ。朝の冷気が気持ち良い。前回、2017年6月10日、我々もここでキャンプしたが、翌朝、車のフロント・ガラスが、ガチガチに凍っていた。6月でも油断は出来ない。その年は雪が多かった。



大海川登山口

5時少し前出発。花を愛でつつ、ブナ巨木を縫うように上る。早朝でまだ、春セミは鳴いていない。荒菅沢に着いて驚いた。雪が殆ど無いのだ。結局、アイゼンなしで渡れた。何回か来ているが、アイゼンなしは初めて。こんな年もあるのだろうか？

荒菅沢を渡り、黒沢尾根を上る。前回は滑った方もいたのに、ここにも全く雪が無かった。上りも下りもある程度、雪があった方が楽し、時間が掛からない。黒沢尾根は、結構、急だった。こんなに急だったかと思った。岩場も多い。樹林帯を抜けるとモーレツに暑くなる。白根菜が現れた。行者大蒜（ニンニク）もあった。背後に妙高が大きい。左に荒々しい焼山が見えた。その後ろは、頸城（くびき）の山々。

参加者の荷物が重そうなので持った。ピッケル・アイゼン・水2本。これで随分楽になり、上りは順調になった。笹平で休憩。まだ、我々の前に誰も居ない。今日は、トップで上っている。なかなか、気分がよろしい。

一旦、少し下り本峰に向かう。毎回、白山一華（ハクサンイチゲ）が咲きそろそろ笹平だが、やっぱり雪解けが早く観察はギリギリ。所が北アルプス北部に目を転じれば、白馬方面は真っ白だった。今年は、4月に入り低温が続く、高山は雪が続き積もった。富士山・飛騨乗鞍岳も同じだった。



荒菅沢 2017年6月11日



今回の荒菅沢

荒菅沢源頭着。1977年5月、ここを滑降した連中は、相当な兵だった。斜度は、富士山頂上直下より急に見える。コルの白根葵・片栗が素晴らしく良かった。

ただ、下界の「タンポポ??」が多く意外だった。2000mで積雪が多い山だが、寒さに強いのだろうか??高山で沢山のタンポポを見るのは初めて。これも温暖化の影響か。すぐ上に期待していた、「雪割草」が可憐に咲いていた。



雪割草

・・・・山地の湿った岩場に生育する[2]。高さは10 cmほどになる。葉はだ円形で根生し、幅1-1.5 cm、長さ3-10 cm、表面は緑色でしわが多く、ふちには波状のゆるい鋸歯があり、やや裏側に曲がる[2]。『また、葉の裏面は淡黄の粉がある』。花茎は高さ7-15 cmになり、その先に3-20個の淡い紅紫色の花をつける。花の径は10-14 mm。苞は線形になり、基部は袋状に膨らまない[2]。花期は5-6月・・・・ネット

通俗的には、「三角草（みすみそう）」が、雪割草と呼ばれているが、実際はそうでない。三角草が春一番で咲くので、そのように呼ばれるだけで、本当の雪割草ではない。ま、そもそも花が全く違う。雪割草のポイントは、上記、ネットの『葉の裏が淡い黄色』である。確かめたら、事実、そのような色だった。以前、新潟の花屋で三角草を雪割草で販売していたので、その事実を話したが、店員は知らなかった。



白山一華と頂上

急な岩峰を上れば頂上着。この日トップで、約4時間だった。雪が多い年は、3時間半位で上れる。今回は、全く雪がなかった。天気は良く温かい。ビアを一本やった。夏は赤トンボが多いが、今回はまだいない。

軽く食事を済ませ、記念写真で下山。ポチポチ上って来る方がいる。下山は、比較的順調だった。途中、Kが急斜面をものとせず、行者大蒜をゲット。途中に小さな鎌を持った地下足袋のオヤジがいた。山菜取りのようだ。話しかけると何故か嫌がり「早く行け、行け」と手で払った。

犬を連れた夫婦？が上って来た。犬は暑そうだった。聞けば、「人間より元気」というが、本当



今回の山菜 手前から、独活（ウド）、根曲がり竹、落の臺、行者大蒜（ギョウジャニンニク）



下山



地下足袋オヤジ

だろうか??何か動物虐待って感じ。更に下で、ご年配の男女に会った。例によって「年寄自慢」。聞けば、女性は昭和17年生まれで79歳。私より5歳上だった。男性は昭和13年生まれで83歳。私より9歳多かった。元気である。

長野の方のようなが、毎年、上っているという。いずれにしても、山麓に前夜宿泊でないから、なかなか大変だろう。いやはや、今回は完全に脱帽でした。上には上、凄い方がいらっしゃる。「お元気で」と別れた。



荒菅沢

荒菅沢には簡単に着いた。時間は11時だが、まだ、ゾロゾロ上って来る。今日、宿泊だろうか。Kが先行して山菜を探しに行った。上り切った所で、大量の独活を持ったKがいた。雪解けの荒菅沢の斜面に出ていたようだ。これは後日、テンプラと味噌炒めで頂いたがサイコーだった。雪が多い山のこの時期の楽しみは、山菜でもある。

暑い中、駐車場着。長かった。帰り支度をしていると、さっきとは違う何処かのオジサンが、ポケットから、根曲がり竹をゴソゴソだしてKにくれた。ザックが満杯で根曲がりが入っているようだ。聞けば、商売で売っているという。オジサンは、そのうち、また戻って来て、今度は「淡竹(ハチク)」をくれた。これは山菜でなく下界のもの。お礼にビアを一本上げた。

根曲がり竹は、焼いて食べると甘くて美味しい。生でもイケル。熊も大好きで、しばしば熊とのトラブルがある。



根曲がり竹

車で山田旅館に戻り温泉。サッパリして帰着。何処かでソバと思ったが、生憎、時間が半端で休憩中。下山後のソバ・熱燗・馬刺しがサイコーなのだが・・・。

平日で車は空いていた。須走からの新しい道のお陰で、時間も随分短縮された。今回も好天に恵まれイイ山旅でした。



雨飾山山頂

